

全国文学館協議会共同展示「3・11文学館からのメッセージ」



福井ゆかりの歌人と天災

期間：2019年3月1日（金）～4月24日（水）

全国の文学館が共通のテーマに基づいて行う共同展示の一環として、福井ゆかりの歌人、吉田正俊、岡部文夫、俵万智が地震を詠んだ歌を紹介します。

項番	作家名	種別	資料名	発行年	発行者
1	都市計画協会/編	雑誌	『新都市』第4巻第2号	1950年	都市計画協会
2	吉田正俊	書籍	『淡き靄』	1981年	石川書房
3	岡部文夫	書籍	『寒雉集』	1946年	青垣会
4	岡部文夫	書籍	『運河』	1949年	新協出版社
5	俵万智	書籍	『あれから』	2012年	今人舎

～天災を詠んだ福井ゆかりの歌人たち～

よしだ まさとし
吉田 正俊 (1902～1993)

略歴

福井市生まれ。東京帝国大学在学中にアララギに入会し、土屋文明に師事。日常生活における心の機微を詠った。

代表作

『流るる雲』
(1975年度読売文学賞)
『朝の霧』
(1988年度遼空賞)

天災について

『くさぐさの歌』に収録されている「新しき福井」20首は、戦災と震災を乗り越え復興した福井を詠んだもの。

おかべ ふみお
岡部 文夫 (1908～1990)

略歴

石川県生まれ。中学時代に短歌を作り始める。1956年以降を福井各地で暮らし、晩年は春江町(現・坂井市)に住んだ。北陸の風土や人々を詠むことを信条とした。

代表作

『晩冬』
(1981年度日本歌人クラブ賞)
『雪天』
(1987年度遼空賞)

天災について

昭和東南海地震や福井地震、桜島噴火など、天災を詠んだ歌も多い。

たわら まち
俵 万智 (1962～)

略歴

大阪府生まれ。中学生の時に武生市(現・越前市)に転居し高校卒業までを過ごす。早稲田大学在学中に短歌を作り始め、エッセイや紀行など幅広いジャンルで活躍している。

代表作

『サラダ記念日』
(1988年度現代歌人協会賞)
『プーさんの鼻』
(2006年度若山牧水賞)

天災について

東日本大震災が発生した時は宮城県に暮らしており、被災者の目線から短歌を詠んだ。